

## 中名田の歴史

### 縄文・弥生時代（約1万2千年～1,700年前）

縄文時代は、狩猟採取の時代と言われています。山の幸や川の幸に恵まれた中名田周辺では、深野や三重などの河岸段丘の安定した土地に居住したと考えられ、それらの遺跡が点在します。深野遺跡（苅田姫神社周辺）では、縄文時代前期（今から6,000年～5,000年前）の煮炊きに使った縄文土器や、南川で魚を採ったときに使った石のおもりなどが見つかっています。弥生時代は、大陸の影響を受け、文化や米づくりが伝来した時期ですが、これらの遺跡は中名田周辺では今のところ見つかりません。可能性がある土地は、継続して田村川、南川の氾濫を受けにくい河岸段丘上の深野から三重周辺と思われる。

### 古墳時代（約1,700年～1,400年前）

弥生時代からの米作りの開始は、土地の個人所有を進め各地に有力者をつくるようになります。これら有力者が土を盛り大きな墓を作るようになるのが古墳時代です。古墳時代後期には、村長クラスの地域の有力者も古墳を作るようになり、小浜市でも数百の古墳が確認されています。中名田周辺では、名田庄村下に後期の古墳（「坪の内古墳群」）が確認されており、現在中名田では発見されていないもののどこかに古墳が存在するものと思われる。

### 奈良・平安時代（約1,300年～800年前）

奈良平城京に都が置かれて以後、地方を統治する体制が進み、若狭国においては遠敷周辺に国府と呼ばれる中心地が置かれました。この頃から徐々に中名田周辺の開発が進み、田村の地名や寺社の由来からも坂上田村麻呂一族による開発が考えられます。

### 中世（約800年～400年前）

平安時代の末から鎌倉時代にかけて中名田は荘園「名田荘」の一部として京都の公家や社寺の所有となりました。室町時代になり若狭守護の力が強くなるにつれ荘園の力がなくなってきました。名田庄は若狭守護武田氏の重臣である粟屋氏の所領となり、その中心として持田の西側に小村城が築城されます。その後、守護武田氏に叛乱し没落する粟屋氏に代わり青井氏が城主となります。青井氏は口名田中井の谷小屋城主の寺井氏と友好関係にあり、小村城と谷小屋城を繋ぐ城として深野区背後の深野城が成立したと考えられます。

### 近世（約400年～140年前）

戦国の世が終わった江戸時代、小浜には雲浜に小浜城が築かれます。海浜の埋め立てには、多くの木炭が使用され、特に深谷・小屋から多くの炭俵が運ばれました。また、産業として川漁を営むもの、和紙を製造するもの、林業を営むものが文献にみられます。

## 中名田の地名

地名はその土地が昔どのように使われていたか、どのような人が住んでいたかなどのヒントをたくさんもっています。これらのことから、中名田の地名を考えていきます。

### 中名田

「中名田村」は、明治 22 年～昭和 26 年までの遠敷郡の自治体名です。その名の由来は、名田庄谷の中域に位置するためです。名田庄地域の名の初見は、平安時代後期に見られる若狭国遠敷郡名田郷です。平安時代中期以降、名田（みょうでん）といわれる私有地の開墾が進みますが、中名田を含む名田庄一帯は、その伝説から坂上田村麻呂一族により開墾が進んだと考えられています。永暦 2 年(1161)の京都徳禅寺文書には「須恵野」（口名田地区）、「伊加野」（上中井）、「不可宇野」（深野）、「息原」（脇原）、「三重」、「弘瀬」（三重・兵瀬又は小屋・広瀬、和多田・大瀬）の地名が見えます。その後、鎌倉時代には、京都の公家や社寺の荘園として「名田荘」が成立し、この地名が現在まで継承されています。

### 田 村

この地名や、各社寺に関する伝世資料から坂上田村麻呂一族との深い関係が考えられます。鎌倉時代には上荘と下荘に分かれた名田荘の下荘惣荘（年貢徴収などの役所が置かれた中心地）となっています。当時の産物として、年貢の記載から米、綿、油、鮎塩、桑などが見られます。

### 和多田

名田荘の地名として鎌倉時代以降に見られます。当時の税金の記録から綿を作る土地が多くあったことも考えられます。南川河運も盛んになったようで、田村川と南川が合流する重要地であったため、河関が置かれて税金をとっています。

### 小 屋

名田荘の地名として鎌倉時代以降に見られます。当時は「小野」と書かれ、制約された土地の状況を示しています。しかしながら熊野神社との関係から飯盛山の修験が平安時代末期から盛んになったことが想定され、これに伴い人々の居住が進んだと考えられます。

### 深 野

平安時代末期にみえる「不可宇野」が初見と考えられますが確かではありません。深いという字は、長い・広いという意味でも用いられ、名田庄の中でも広い土地を持っていたことに由来するのかも知れません。近隣の関、または市場という小字からも関や市場としての機能が成立し、名田荘の中でも経済の中核として発展したことが見えます。